

# 会津柳津学園中学校の目指すもの

柳津町立会津柳津学園中学校

## はじめに

平成30年4月1日、柳津町に新しい中学校が誕生しました。雄大な只見川の流れ、豊かな自然に抱かれた柳津町の唯一の中学校となります。世界にも誇れる美しい里 柳津にふさわしい学校にしていきたいと思えます。

学校に与えられた役割は、人材の育成です。めざすべき人材は、持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で活躍できる人材に他なりません。ふるさとのよさをしっかり理解した上で、知徳体バランスのとれた成長と時代の要請に即した力を身につけさせることをめざしたいと思えます。

中学校教育に要請される基礎的な学力はもちろんですが、地域が直面する社会的課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決等の国際的素養を身につけること、故郷の良さや自分たちの幸せについて真剣に考えること、近い将来はもちろん数十年先の故郷をどうするのかという視点を身につけさせたいと思えます。

学園の生徒には、楽しい学園生活を送りながら、自らの目標を見つけ、努力し、成長してほしいと思えますし、そのための環境作りを精一杯行っていきたいと思えます。

ここで 学んだ学園の生徒が、ふるさとを創り、日本や世界の持続的発展のために国際社会へと飛躍する姿を応援し続けられる学校とします。

## 新しい学校を構想するに当たって

### 学校についての考え方

#### 「明日が楽しみでしようがない」

小さい頃は、近所の友だちと日が暮れるのも忘れて、飽きもせず遊びほうけていたものです。日が暮れて、残念ながら返らざるを得なかったときでも、「明日はこうしよう。これに挑戦してみよう」と翌日のことが気になって仕方がないものでした。

あの頃どうしてあんなにもわくわくドキドキを感じていたのでしょうか。今のようなテレビゲームがなかった時代ですので、遊ぶことといえば、鬼ごっこであったり、かくれんぼ、メンコ、ドッジボール、ままごとやケンケンパー…。

そうした「遊び」の何がそんなに私たちを駆り立てたのでしょうか？整理してみると次のようになるかと思えます。

- ①なりたい自分になれる。(ままごと、ごっこ遊び)
- ②成長が自覚できる。習熟の度合いが成果となって現れ、ステージがあがる。(缶蹴り、スキー、竹馬、自転車乗り、メンコ、ドッジボール)

「なりたい自分になる」「成長の自覚」…まさに学校そのものともいえるのではないかと思います。学校はややもすると「行きたくないところ」「休みたいところ」の筆頭に

あげられるところなのかもしれませんが、前述のようなかつて私たちを夢中にさせた「遊び」の要素をもっと取り入れることができれば、学校を「行くのが楽しみでしようがない」というところにするところができるのではないかと思うのです。

会津柳津学園中学校は、新設の学校であり、適度に小さい学校です。大きな学校や伝統校では難しいことでもその機動性のよさやしがらみがないことで、かなり自由度がきく学校だと思っています。可塑性に富み、他校ではリスクと思われることでもいろいろ試すことができる学校です。子どものために「よい」と思われることは、多少のリスクが予想されても「挑戦」してみたいと思っています。

## 柳津町の現状から

柳津町に限らず、会津地方のほぼ全域で過疎が進行している現状があります。日本の産業構造が大きく変化したことで、豊かな営みがあった農業、林業が衰退、働き場所を求めて多くの人々が離れざるを得なかった状況が現在の過疎の進行を招く要因となっています。

でも、今やその状況にも変化が見られ始めています。今必要なのは、従来の「働く場所がないから町に出て行く」という発想から「地元で仕事を創る、産業を興す、起業する」という発想への転換です。

新しい学校では、このことを念頭に、本来地域の学校が持っていた役割に立ち返り、地域を活性化し、地域を豊かにする視点で教育を構想します。地域の抱える問題を中学生の立場で考え、課題解決に立ち向かう過程で、自らの果たすべき役割を自覚し、問題発見能力、企画力、情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、チャレンジ精神など、今後日本の社会で身につけることが求められる諸能力を獲得できると考えるからです。

## 国の動向から

実際、平成27年6月4日に発表された「日本創生のための教育改革」では、「工業化社会から、「新しい知」や「価値の創造」が求められる情報化社会に大きく変化すること。これからの時代に必要となる資質・能力（真の学ぶ力）として、

### これからの時代に必要となる資質・能力＝「真の学ぶ力」

- 主体的に課題を発見し、解決に導く力
- 創造的な発想力、直観力
- 他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク
- コミュニケーション能力、豊かな感性や優しさ、思いやり
- 多様性を尊重する態度

をあげています。端的に言えば、国が育成を目指す資質・能力の柱としてあげているのは、  
 ●知識・技能 ●思考力・判断力・表現力 ●学びに向かう力・人間性等

であり、新しい学校でも、この力を身につけさせるべく諸条件を整備していきたいと思えます。

## 今後目指すべき学校像

### 今後の方向性

- 自ら企画し、高い志を持ち、他者と協働しながら新しい価値を生み出す主体性や創造性など、これからの時代を生きていくために必要な力を育む必要がある。
- 専門的職業人として必要な知識・技能の高度化に対応するため、地元企業等と連携した実践的な教育、大学等と連携したより高度な知識・技能を身に付けるための教育を充実させなければならない。
- 地方創生を進めていく中で、地域を担う人材が不足する。地域活性化のための人材を育成する必要がある。

## 会津柳津学園中学校のねらい

### 会津柳津学園中学校開校の基本理念

#### 3つの原則

- ① 生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな心）を育てる学校
- ② グローバル化、厳しい経済環境への対応力の基礎を養う学校
- ③ ふるさと、柳津への強い思いを育てる学校

#### めざす教育

- ① 厳しい環境にあっても「生き抜く力」を育み、一人ひとりの個性を生かす教育
- ② 豊かな人間性・温かい心・自ら学び自ら考える力を育てる教育
- ③ 地域に学び地域に貢献する活動を重視し、郷土愛を育てる教育
- ④ 基礎基本を身につけ、活用力を養成する教育
- ⑤ 自信とプライドが持てる教育

#### 5つの指針

- ① 中学生が共に学ぶ唯一の中学校として誇りに思える学校
- ② 学力が身につく指導が行われる学校
- ③ 国際化・情報化に対処できる人材を育成する学校
- ④ 地域で育つ、地域を育てる学校
- ⑤ 健康と保健を重視し、高齢化社会に対応する学校

## 5つの指針を実現するために

### 中学生が共に学ぶ唯一の中学校として誇りに思える学校

- ▶ 快適な学習環境を目指します。
- ▶ 文化活動や優れた芸術作品の観賞が出来るようにします。
- ▶ 挑戦の機会を増やし、可能性を伸ばします。(各種大会・コンクール、検定試験)

### 学力が身につく指導が行われる学校

- ▶ 学習指導の個別化・個性化などに対応し、基礎学力の充実を図ります。
- ▶ 目的に応じてモジュール時程を積極的に導入します。
- ▶ 自分の考えをしっかりと持ち、発表したり討論できるようにします。

### 国際化・情報化に対処できる人材を育成する学校

- ▶ 日本語及び英語の語学指導を充実します。
  - ・ A L Tとの日常会話の時間を設けたり、英語以外の授業を英語で行ったりして、英語に対する抵抗感の軽減を図り、語学指導の充実を図ります。
- ▶ 国際交流活動を活性化し、国際感覚の向上を図ります。
  - ・ 海外研修等を充実させてグローバルな視点を身に付けさせます。
  - ・ さまざまな研修を通して、外国人との積極的交流を図ります。
- ▶ タブレット P C 活用の環境を整えます。
  - ・ 学習指導へのタブレット P C の積極的活用を図ると共に、情報リテラシーの充実を図ります。(情報を集め、判断し、活用する能力)
- ▶ I C T 機器の導入により、4 C の能力向上を図ります。

4 C :

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| ① Community (協働力)    | ② Communication (言語力)    |
| ③ Cognition (思考・判断力) | ④ Comprehension (知識・理解力) |

### 地域で育つ、地域を育てる学校

- ▶ 地域や地域の方と共に学び、地域に貢献する人材を育成します。
- ▶ アントレプレナーシップ育成教育による人材育成を推進します。
  - ① 主体的に課題を発見し、解決に導く力
  - ② 創造的な発想力、直観力
  - ③ 他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク
  - ④ コミュニケーション能力、豊かな感性や優しさ、思いやり
  - ⑤ 多様性を尊重する態度

## 健康と保健を重視し、高齢化社会に対応する学校

---

- 充実した保健指導やカウンセリングの機能が十分に行えるようにします。
- 自分の健康に関心を持ち、積極的に体力づくりができるようにします。
  - ・部活動を活性化し、生徒が意欲を持って様々な可能性に挑戦できるようにします。
  - ・食事内容改善の関心を高めるための生活体験を得られるようにします。
  - ・学校給食センターと連携し、学枚給食を通して望ましい食習慣が形成できるようにします。
- 高齢者への思いやりと尊敬の気持ちを育み、触れ合う機会をつくります。
  - ・高齢者施設を訪問し、ボランティア活動によって心を育てます。
  - ・高齢者とのふれあいの機会を設け、異年齢交流を促進します。



## 会津柳津学園中学校教育課程案

### 教育目標

#### 未来を創造し、社会に貢献する人材の育成

しなやかな知性 ゆたかな感性 たくましい心身

柳のようにしなやかに 只見川のようにゆたかに 博士山のようにたくましく

### あこがれ(理想)を求めて

#### めざす学校の姿

「信頼」：「行ってよかった、行かせてよかった」と実感できる学校

- ① 生徒が、生き生きと学習し、笑顔あふれる学校。
- ② 教師が、生徒の良さを引き出し、共に成長できる働きがいのある学校。
- ③ 保護者が、学校を信頼し、子どもの成長のために共に協力する学校。
- ④ 地域が、親しみをもて、明るく開かれた学校。

学校生活に、夢中になれるものを見いださせ、「明日が楽しみでしようがない」学校を目指し、生徒には「行ってよかった」「柳学中でよかった」、保護者には「行かせてよかった」「会津柳津学園中学校に満足！」と言ってもらえる学校を目指したいと思います。

学校の教育目標を達成するためには、学校への信頼が何よりもの基盤です。子どもの命を守り、出会う人全てを幸せにするのが学校の使命です。

そこで、

一人ひとりが「確かな成長」を感じ取れるあこがれの学校

を目指します。

あこがれの学校とは

- ◎ 「地域の学校として信頼される
- ◎ 「学びたい」「学ばせたい」と誰もが思う。(いわゆる「名門校」と同様の価値)
- ◎ 越境してでも入学したい

そのために…

「信頼」：地域が、親しみをもて、明るく開かれた学校

**あ** 安全・安心な学校

- ◎ 学校経営の基本。どこよりも安心で、安全に生活できる学校環境の構築

**こ** 心が育つ学校

- ◎ どんな環境におかれても、常に前向きで向上心があり、何事にも挑戦する心の育成
- ◎ 礼儀正しく、思いやりがある「品性」の醸成（自分に厳しく、他人に優しい）
- ◎ 行動を見ると、一目で柳学中生とわかる

**が** 学力がある学校

- ◎ 自ら学習方法を工夫し、学び続ける姿勢の構築（学ぶ力の強さ）
- ◎ 世界のトップ校に進学しようとする意欲と学力の獲得

**れ** 連携して歩む学校

- ◎ 地域に学び、地域に貢献する意識
- ◎ 地域防災の担い手として

をめざします。

めざす生徒の姿

「自信」：しなやかな知性 ゆたかな感性 たくましい心身

**あ** ○ 愛され、応援される生徒（豊かな感性）

（自他のよさを認め思いやりの心を持って積極的に周囲と関わる生徒を育てます。）

**こ** ○ 向上心があり、何事にも挑戦する生徒（しなやかな知性、たくましい心身）

（夢に向かって進んで学び新たな発想のできる生徒を育てます。）

**が** ○ 学習方法を工夫し、自ら学ぶ生徒（しなやかな知性）

（可能性に向かって自らを鍛え、たくましく行動する生徒を育成します。）

**れ** ○ 礼儀正しく、健康でさわやかな生徒（たくましい心身）

（相手の立場になって判断、行動できるたくましい心身を育てます。）

経営基本方針

(1) 学力の確実な定着

- 学習意欲を喚起し、個性を生かす指導方法を工夫する。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 主体的・対話的で深い学びを重視し、生きた学力を身に付ける。

## (2) ゆたかな感性の育成

---

- 高齢者や障害者との交流を図り、思いやりの心を育む。
- 身の回りの環境に働きかけ自然を慈しむ態度を育成する。
- 保健指導やカウンセリングにより心身の健康を図る。

## (3) 国際化・情報化への対応

---

- ALTの活用を工夫し、語学指導を充実する。
- 国際交流活動を活性化し、国際感覚の向上を図る。
- 生徒にコンピュータやテレビ等を使用させ、情報活用能力を育成する。

## (4) 生徒指導の充実

---

- 異学年交流を深め、柳津町民としての意識が育成されるようにする。
- 学級経営の充実を図り、学校生活の居場所づくりに努める。
- 生徒との触れ合いに努める。
- 家庭、地域社会、関係機関との連携を図る。

## (5) 開かれた学校づくりの推進

---

- 学校の教育活動を積極的に町民へ広報し、学校教育への理解を図る。
- 家庭、地域社会との融合を図り、町民参加の教育活動を実践する。
- 校外での学習や地域行事への積極的参加に努め、郷土愛の心情を育む。

## (6) 指導資質の向上

---

- 小学校隣接の特質を生かした共同研修の充実に努める。
- 小・中・高校の連携を深め、学習指導や生徒指導の情報交換に努める。